

# 調査の概要

千葉県の国際化を取り巻く状況としては、住民や NGO を主体とした国際交流・協力活動の活発化、年々増加する在在外国人与県民との共生意識の高まり、国境を越えた経済活動の高まりなどの動きが見られるようになっていきます。

こうした中、千葉県では、時代潮流を的確に反映した、21世紀の到来にふさわしい国際化推進方策を示すため、平成14年度に「千葉県国際政策推進プラン」を策定することとしています。

これに伴い、千葉県を取り巻く国際化の現状や行政へのニーズなどを把握するため、県民、在在外国人、留学生、民間国際交流・協力団体を対象とする調査を行いました。この概要版は、調査結果のうち、主な部分についてわかりやすくまとめたものです。

調査名	調査対象者	配布数	有効回答数	有効回答率
県民国際化意識調査	県内の20歳以上の男女個人	3,000	1,056	35.2%
外国籍県民生活アンケート	県内の20歳以上の登録在在外国人個人	2,500	785	31.4%
留学生生活アンケート	県内の大学等に在学する留学生	250	119	47.6%
民間国際交流・協力団体活動実態調査	県内の国際交流・協力団体	223	105	47.1%

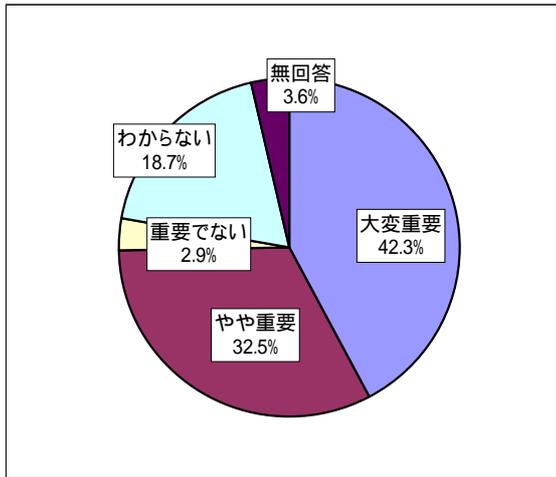
けんみん こくさいか いしき ちょうさ  
 . 県民国際化意識調査

<参考> SA : 単一回答

MA : 複数回答

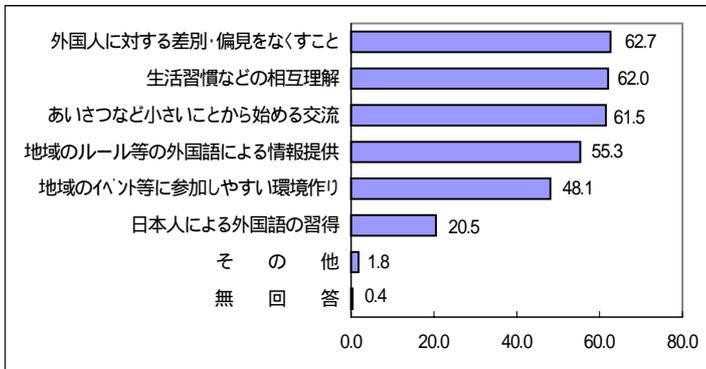
がいこくじん きょうせい いしき  
 外国人との共生意識

(1) 外国人とともに暮らしやすい社会を形成することの重要性 (SA、単位：%)



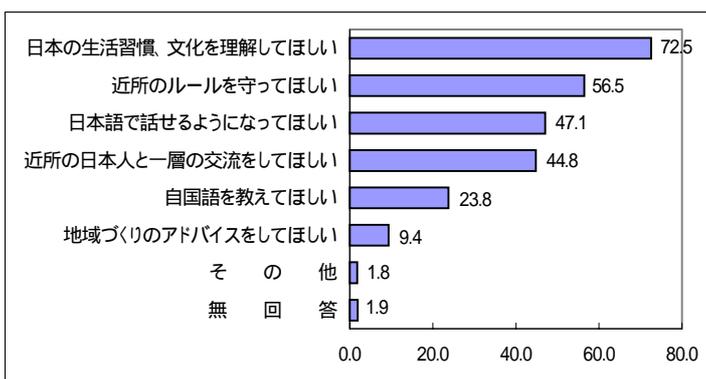
「大変重要」と「やや重要」を含めて、アンケート回答者の4分の3が「外国人とともに暮らしやすい社会の形成」が重要だとの認識を抱いています。外国人と共生していくことに関する認識は高いといえるでしょう。

(2) 外国人とともに暮らしやすい社会の形成に必要なこと (MA、単位：%)



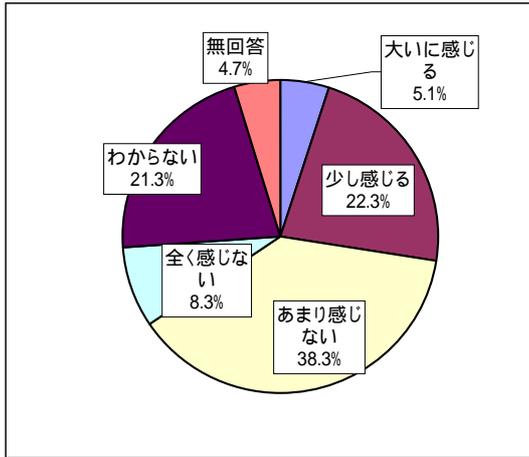
そのために県民として必要なことについては、「外国人に対する差別や偏見をなくすこと」、「生活習慣などの相互理解」などの回答が多く見られました。

(3) 外国人とともに暮らしやすい社会のため外国人に望むこと (MA、単位：%)



逆に、在住の外国人に対して望むこととしては、「日本の生活習慣、文化などを理解してほしい」、「近所のルールを守ってほしい」などの声が多く聞かれました。

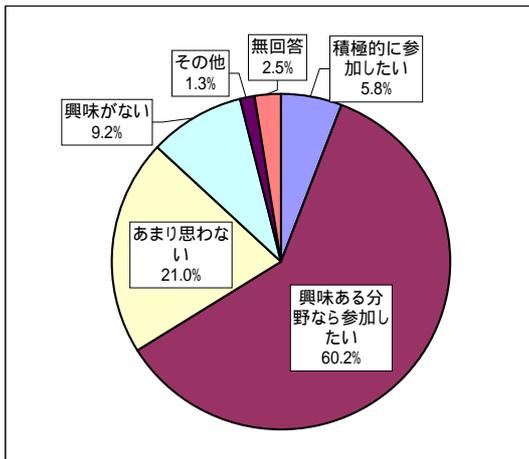
(4) 外国人への差別や偏見の意識 (S A、単位：%)



自分のまわりの外国人に対する差別や偏見があるかをたずねたところ、「大いに感じる」は5.1%でしたが、「少し感じる」の22.3%を加えると、全体の3割弱が何らかの差別や偏見があると感じています。

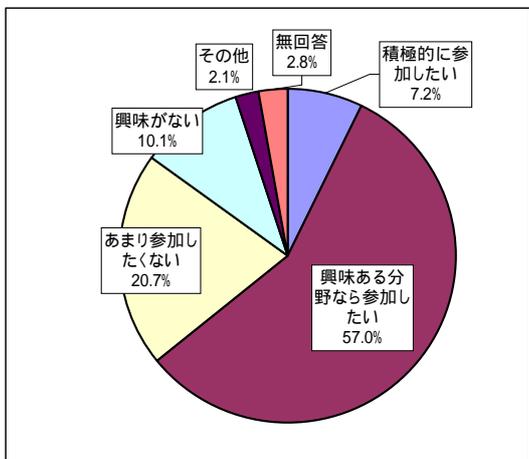
国際交流・協力活動について

(1) 今後の国際交流活動への参加意欲 (S A、単位：%)



今後、外国人との交流イベントや地域の外国人を支援する活動に「積極的に」、あるいは「興味や関心のある分野なら」参加したいと回答した人は、合わせると3分の2近くになりました。県民の多くは意識のうえでは、これらの国際交流活動への参加に前向きであると考えられます。

(2) 今後の国際協力活動への参加意欲 (S A、単位：%)

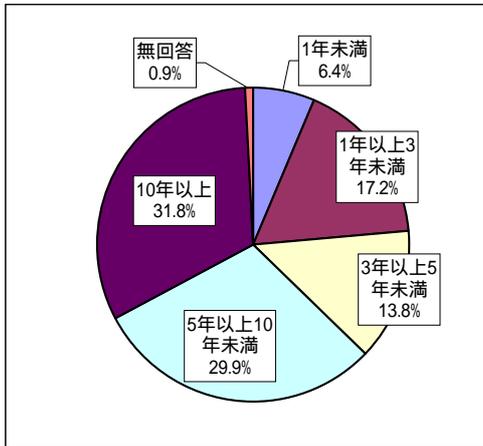


また、国際協力活動についても、7.2%が「積極的に参加したい」、57.0%が「興味や関心のある分野なら参加したい」と回答しており、約3分の2が関心を持っているなど、前問の国際交流活動に対する回答と同様、全体的に前向きな意欲が感じられます。

がいこくせきけんみんせいかつ  
 . 外国籍県民生活アンケート

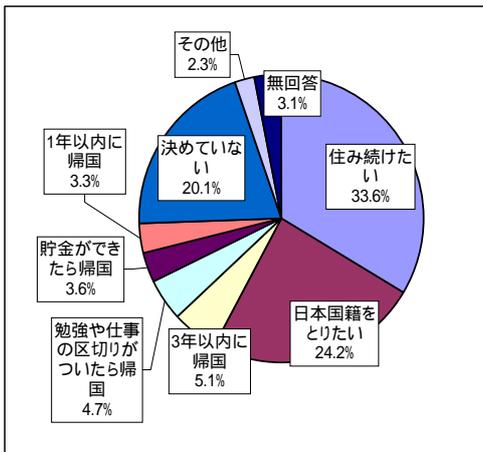
にちじょうせいかつ  
 日常生活について

( 1 ) 千葉県での通算 在住年数 ( S A、単位 : % )



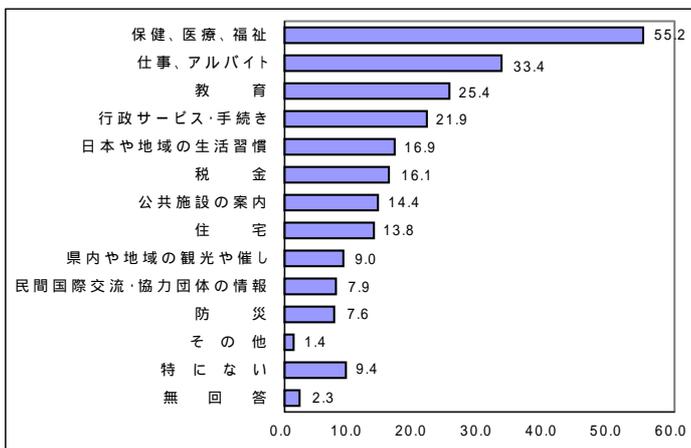
千葉県での通算の 在住年数 に関しては「10年以上」、「5年以上10年未満」の順で回答が多く寄せられました。両者を合わせると、回答者の6割以上が5年以上にわたり、千葉県に在住していることになります。

( 2 ) 今後の滞在予定期間 ( S A、単位 : % )



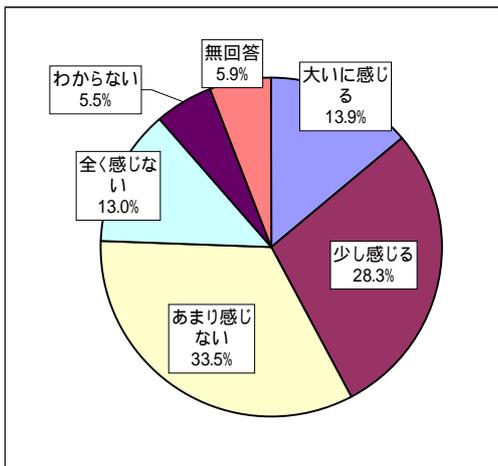
これから先、日本にどのくらい滞在する予定であるかについては、「住み続けたい」が1位、「できれば日本国籍を取りたい」が2位となりました。回答者の多くが、将来にわたっても日本での生活を続けたいと考えていることがうかがわれます。

( 3 ) 必要とする生活情報 ( M A、単位 : % )



生活するうえで必要な情報としては、「保健、医療、福祉」、「仕事、アルバイト」、「教育」の順で回答が多く、中でも「保健、医療、福祉」に特に高い関心を抱いています。

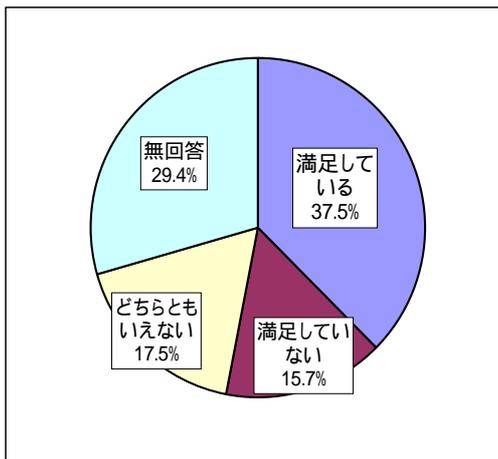
(4) 在住外国人による差別や偏見についての意識 (S A、単位：%)



日常生活での差別、偏見については、13.9%が「大いに感じる」と回答しました。「少し感じる」とした28.3%を含めると、4割以上が偏見や差別感を感じていることになります。

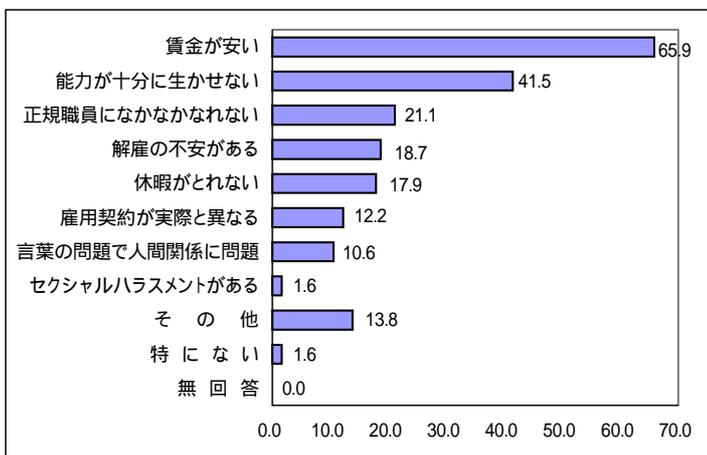
仕事について

(1) 仕事への満足度 (S A、単位：%)



現在の仕事には、37.5%が「満足している」と回答しましたが、逆に「満足していない」とした人も15.7%にのぼっています。

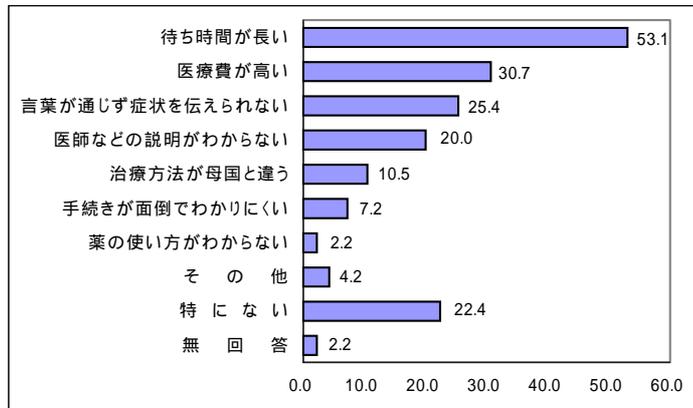
(2) 仕事の不満理由 (M A、単位：%)



現在の仕事に満足していない回答者によるその理由としては、「賃金が安い」が65.9%と特に多く、賃金面での不満が大きいです。

## 医療について

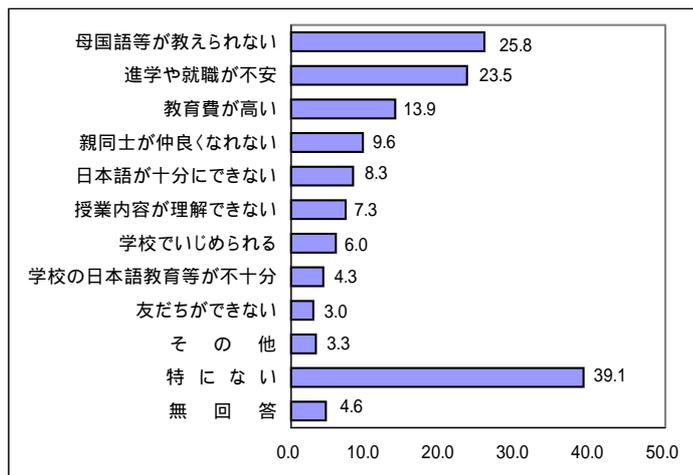
### (1) 病院で困ったこと (MA、単位：%)



病院で困ったこととしては、「待ち時間が長い」に、最も多くの回答が寄せられました。

## 教育について

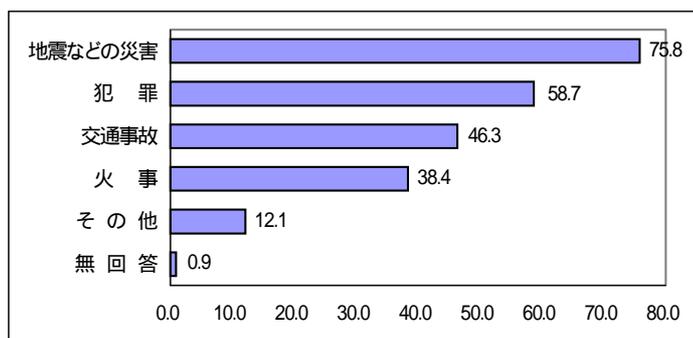
### (1) 子どもの教育上の悩み (MA、単位：%)



4割近くが、子どもの教育上の悩みは「特にない」と回答しました。また、実際に悩んでいる人の声としては、「母国語や母国の文化が教えられない」や「進学や就職が不安」などが多く聞かれました。

## 安全・災害について

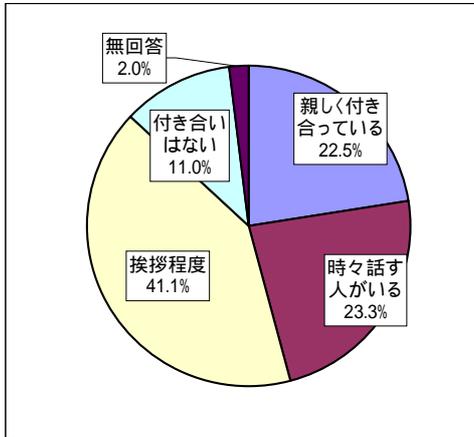
### (1) 生活上の安全に関する不安対象 (MA、単位：%)



生活上の安全に関する不安の対象としては、「地震などの災害」がトップでした。また、「犯罪」も半数以上を占め、人為的な事件への不安感も多くが抱えていることがわかります。

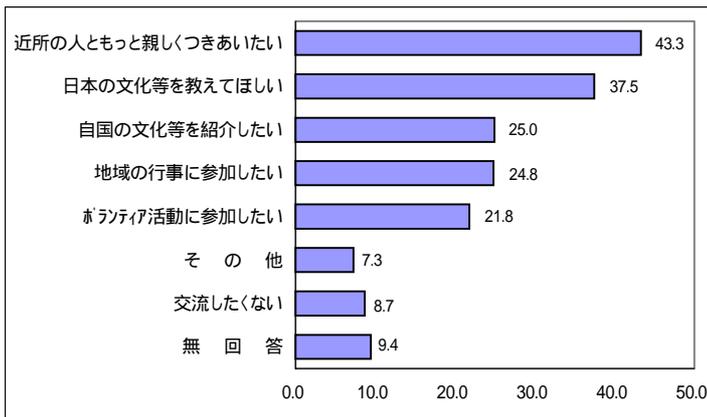
交流の機会について

(1) 日本人との付き合い程度 (SA、単位：%)



近所(自治会)の日本人との付き合いに関しては、「挨拶程度」が最も多く、「時々話をする人がいる」、「親しく付き合い合っている」も合わせると9割近くの回答者が何らかの形で付き合いを持っています。ただし、「親しく付き合い合っている」は2割強で、全体的な付き合いの程度はそれほど深くないと考えられます。

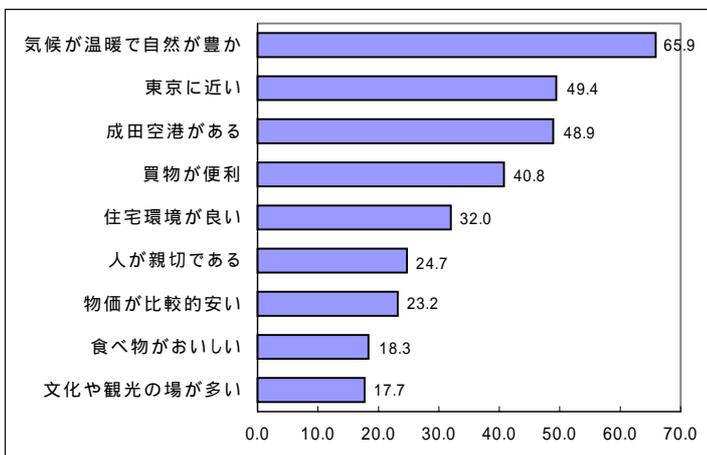
(2) 日本人との交流への期待 (MA、単位：%)



近所(自治会)の日本人とどのような交流をしたいかに関しては、「近所の人ももっと親しくつきあいたい」に4割以上の回答が寄せられるなど、今以上に日本人と交流を持ちたいと多くの在住外国人が考えていることがわかります。

千葉県の印象について

(1) 千葉県の良いところ (MA、単位：%)

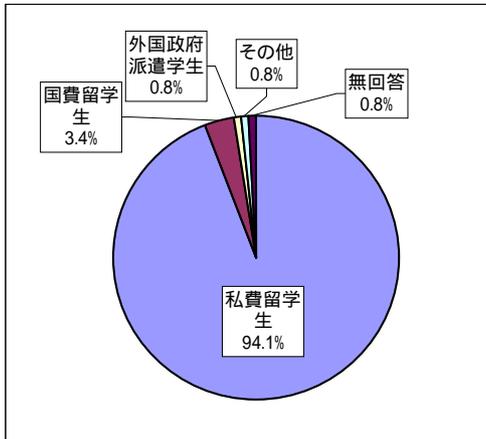


千葉県の良いところとしては、「気候が温暖で自然が豊か」に最もたくさんの回答が寄せられました。また、「東京に近い」、「成田空港がある」など立地的な優位性をあげる回答者も多く見られました。

留学生生活アンケート

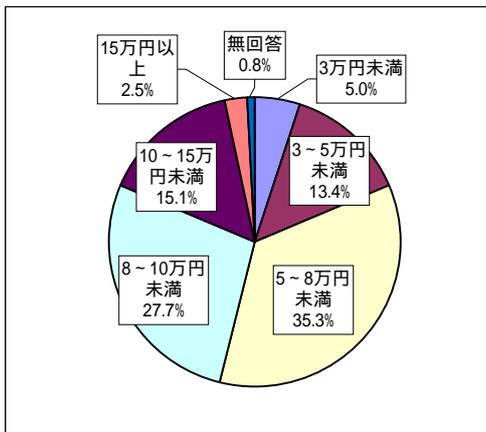
奨学金の状況とアルバイト

(1) 留学生の種類 (SA、単位：%)



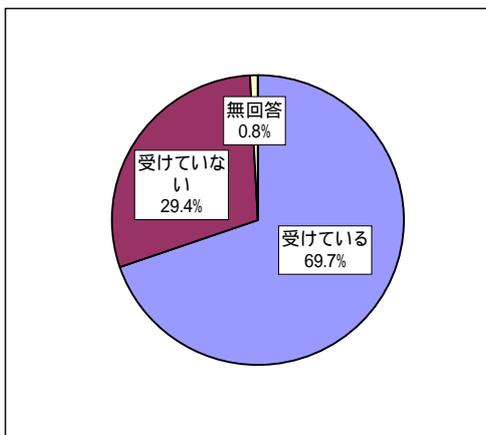
回答者がどのような留学生かたずねたところ、「私費留学生」が全体の94.1%とそのほとんどを占めました。

(2) 生活費 (SA、単位：%)



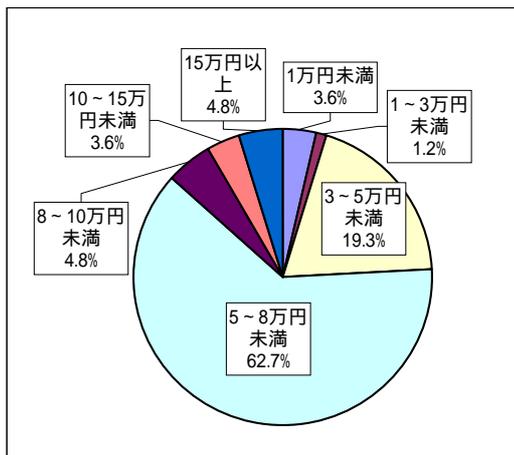
授業料を除く1か月の平均生活費としては、全体の6割強が5~10万円の範囲にあります。しかし、3万円未満との回答があった一方で、15万円以上との回答もあり、留学生の生活費の金額にはかなりのばらつきもみられます。

(3) 奨学金受給の有無 (SA、単位：%)



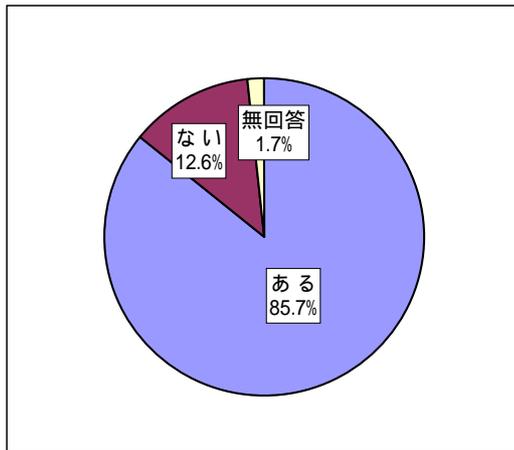
奨学金を受けているかについては、7割近くの回答者が「受けている」としています。

(4) 奨学金の金額 (SA、単位：%)



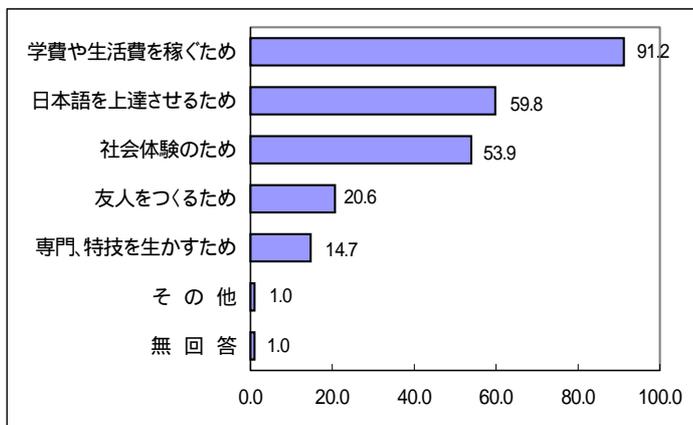
奨学金の金額については「5～8万円未満」、「3～5万円未満」の順に多く、これらを合わせると、8割以上となっています。

(5) アルバイト経験の有無 (SA、単位：%)



アルバイトに関しては、85.7%と多くの留学生が、経験が「ある」と回答しています。

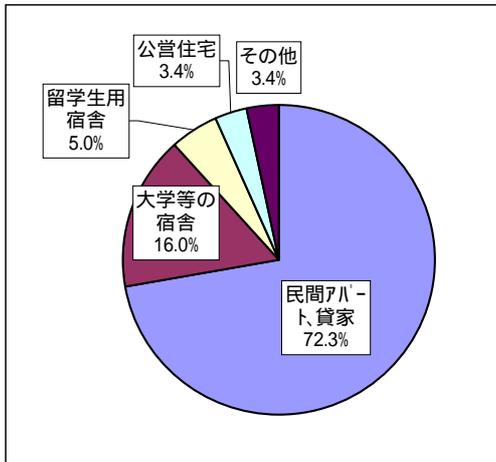
(6) アルバイトを行う理由 (MA、単位：%)



アルバイトを行う理由としては、91.2%が「学費や生活費を稼ぐため」をあげました。また、「日本語を上達させるため」など日本での生活に慣れることをアルバイトの理由にあげる人も多く見られました。

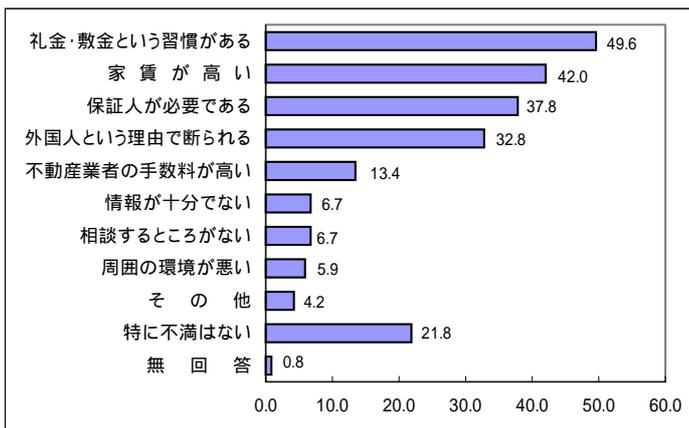
## 住居について

(1) 住居の形態 (SA、単位：%)



現在の住居については、72.3%と多くの留学生が「民間のアパート・貸家」と回答しています。

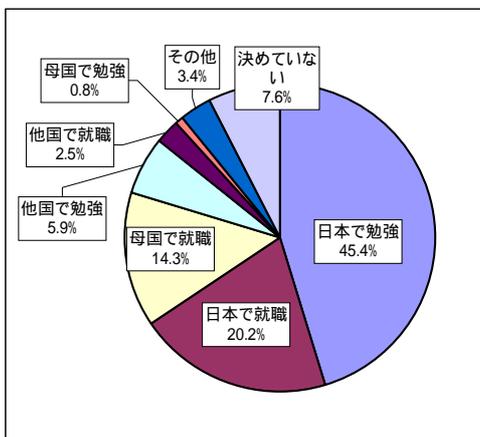
(2) 住居への不満 (MA、単位：%)



住居についての不満内容としては、「礼金・敷金という習慣がある」という回答が約半数を占めました。また、家賃の高さや保証人が必要であること、外国人という理由で断られる、などを不満とする回答も比較的多く見られました。

## 今後について

(1) 卒業後の予定 (SA、単位：%)

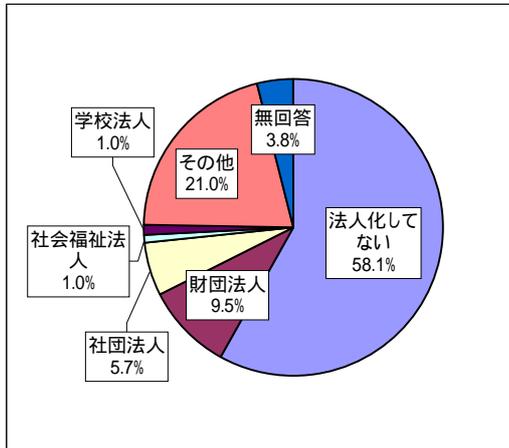


学校を卒業した後の予定を聞いたところ、45.4%が「日本で勉強を続けたい」と回答しました。また、「日本で就職したい」との回答も20.2%と次に多く、卒業後も何らかの形で日本に残りたいと考えている回答者が全体の約3分の2を占めました。

民間国際交流・協力団体活動実態調査

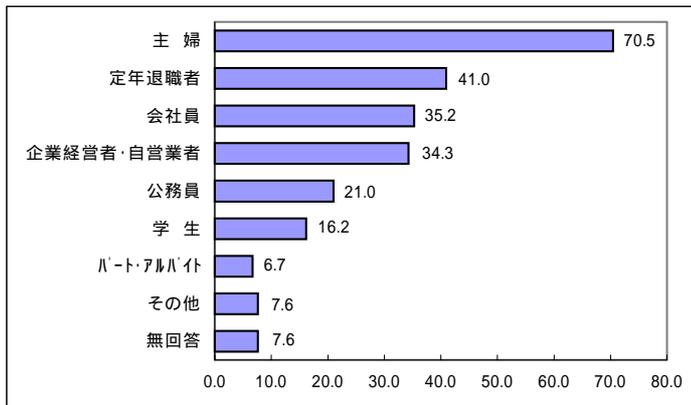
団体について

(1) 団体の形態 (SA、単位：%)



アンケートに回答した団体のうち「法人化していない」団体が全体の過半数を占めました。法人化している団体としては、「財団法人」、「社団法人」の順に多くなっています。

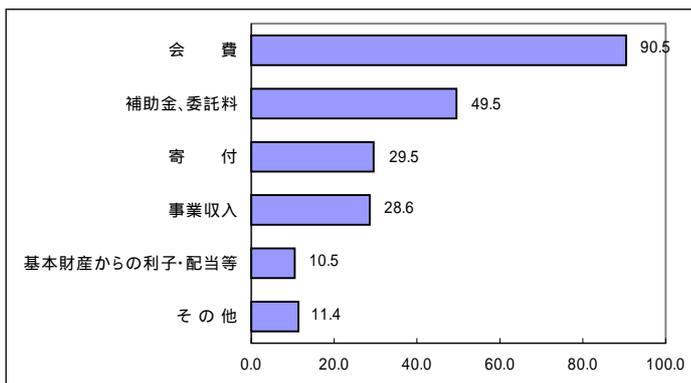
(2) 会員の主な職業 (MA、単位：%)



会員の主な職業としては、7割の団体が「主婦」と回答しており、主婦が民間国際交流・協力団体の活動において大きな役割を果たしていることがうかがわれます。

活動経費について

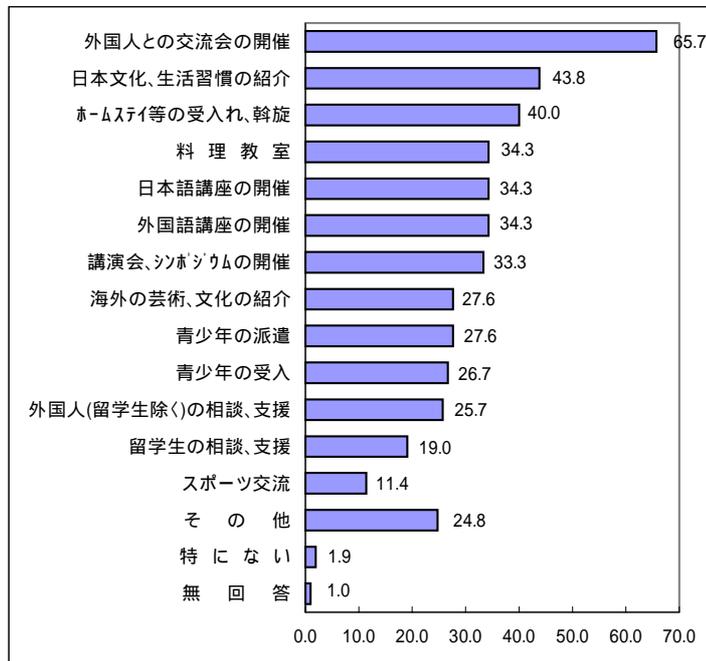
(1) 財源 (MA、単位：%)



主な財源については、9割の団体が「会費」と回答しました。また「自治体からの補助金、委託料」をあげた団体も半数近くにのぼりました。

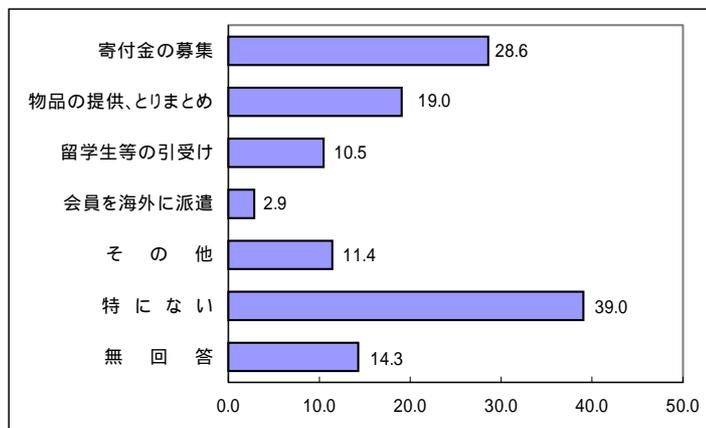
## 国際交流・協力活動について

### (1) 国際交流活動の実施内容 (MA、単位：%)



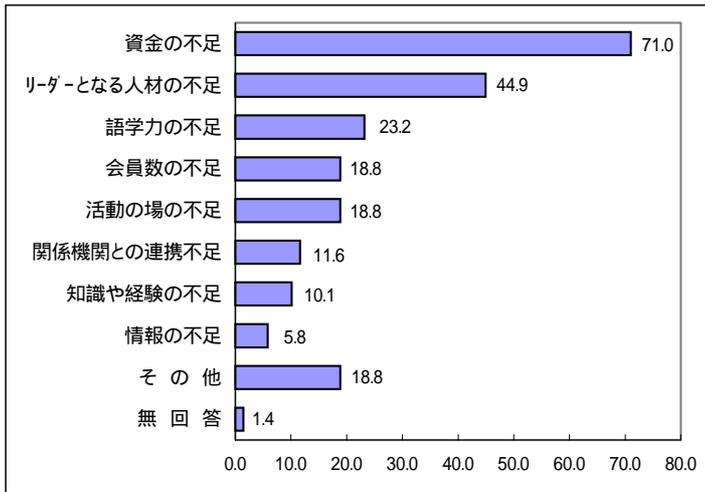
具体的な国際交流活動の内容については、65.7%の団体が「外国人との交流会の開催」をあげており、最も多く行われている活動となっています。次いで「日本文化、生活習慣の紹介」が多くとなっています。

### (2) 国際協力活動の実施内容 (MA、単位：%)



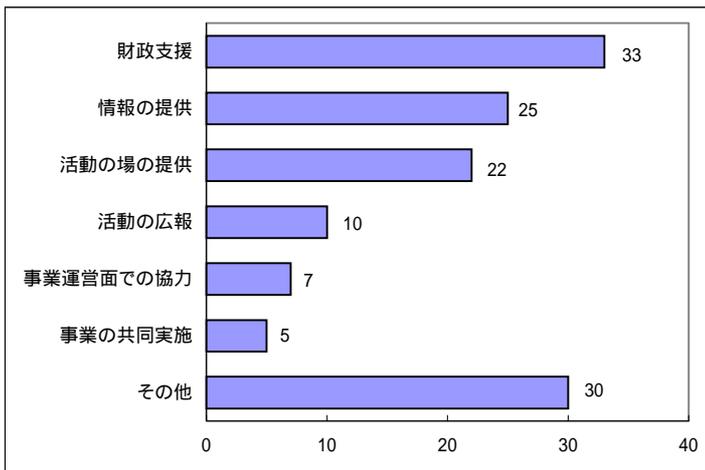
国際協力活動に関しては、「寄付金の募集」などの回答がありましたが、「特にない」との回答が39.0%で最も多く、アンケートに回答した団体を見る限り、国際協力活動より前述の国際交流活動を行っている団体の方が多いことがうかがわれます。

(3) 活動上の問題点 (MA、単位：%)



活動上の問題点としては、「資金の不足」を7割の団体があげており、多くの団体が財政面で問題を抱えていることがわかりました。また、「リーダーとなる人材の不足」を問題とする指摘も多く見られました。

(4) 行政に望む支援・連携 (MA、単位：件)



県や市町村に期待する支援・連携の内容を記載してもらったところ、「財政支援」「情報の提供」「活動の場の提供」の3点に関する記載が多く見られました。

千葉県国際政策基礎調査 (概要版)

2002年2月

千葉県環境生活部文化国際課

千葉市中央区市場町1番1号

電話 043 - 223 - 2255